

1. 平成18年4月
2. ねらい
  - ・著作権の存在を知るとともに、自分の作品と同様に友だちの作品も大切に育てる。
3. 活動の流れ

活動および取り組みの流れ	支 援
<p>教師が考えたキャラクターを紹介する。</p> <p>児童から出てくる言葉に対して、あくまでもオリジナルを主張する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色がちがう</li> <li>・ポケットが四角い</li> <li>・好きな食べ物は「梅干し」</li> <li>・犬がこわい など</li> </ul> <p>児童から出てきた「パクる」という言葉を取り上げ「なぜパクるのが悪いのか？」を話し合う。</p> <div data-bbox="221 869 676 1205" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>『パクる』のは、なぜ悪い？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 正しくは、『著作権(ちよさくけん)を侵害(しんがいはい)する』と言います。</li> <li>■ キャラクター、絵、音楽、文章、映像、テレビ番組などの作品には、かならず著作権があります。</li> </ul> </div> <p>著作権について基本的な内容を知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこでも、だれにでも自然に発生する権利である</li> <li>・© が著作権を明示している</li> <li>・侵害している行為とは</li> <li>・著作権の例外</li> </ul> <p>著作権についてまとめる</p> <div data-bbox="221 1480 676 1816" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>著作権とは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ みんなが、いろいろな作品を自由に楽しむための権利。</li> <li>■ みんなが、ほかの人をきちんとみとめてあげて、平和にくらすための権利。</li> </ul> <p>自分の著作権と他の人の著作権。どちらも同じように大切にしなければいけないもの</p> </div>	<p>プレゼン・ソフトを用いて、楽しく自由な雰囲気の中で活動できるようにした。</p> <div data-bbox="798 546 1445 887" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> </div> <p>児童にとってわかりやすい「パクる」という言葉を用いることで、より自由に意見を出せる雰囲気を大切にした。</p> <p>著作権という言葉で提示して、上のキャラクターは著作権を侵害しているということ確認した。</p> <div data-bbox="807 1223 1262 1559" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>著作権を侵害(しんがいはい)するって、どんなとき？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作った人の許可なく、勝手に作品を使う。</li> <li>■ 勝手にコピーしたり、ダビングしたりする。</li> <li>■ ものすぐくにいる物を自分の物だと言う。</li> </ul> </div> <div data-bbox="975 1417 1433 1753" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>特別にゆるされている場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 個人で楽しむ時 一例)自分が楽しむために、CDをレンタルして、MDにダビングした。</li> <li>■ 学校で教育のために使う時 一例)理科の番組を録画して、教室で見た。</li> </ul> </div>

4. この取り組みによって、子どもにどのような変化(成果)がありましたか。
 

授業後に子どもたちの口から著作権という言葉が頻りに聞かれるようになったり、自分の持ち物に付いている © マークを探したり、著作権というものについて関心をもたせることができた。

また図工や総合の時間で、作品を作る時に「これには自分の著作権がある」というつぶやきも出て、自分の作品に対してより愛着をもって制作していた。さらに友だちの作品の著作権を意識する上でオリジナリティにも目を向けるになり、お互いのよさを認め合えるようになってきている。